

「孤独死・孤立死」の実態把握に関するワーキンググループ（第4回） 議事要旨

1. 日時 令和6年3月17日(月) 13:00～14:20

2. 場所 オンライン開催（株式会社日本リサーチセンター会議室）

3. 出席者

構 成 員：石田 光規 早稲田大学文学学術院文化構想学部 教授（座長）
金涌 佳雅 日本医科大学大学院医学研究科 教授
斉藤 雅茂 日本福祉大学社会福祉学部 教授
田高 悦子 北海道大学大学院保健科学研究院創成看護学分野 教授
オブザーバー：警察庁、厚生労働省
事 務 局：内閣府孤独・孤立対策推進室、株式会社日本リサーチセンター

4. 議題

- (1) ワーキンググループ取りまとめ（案）について
- (2) その他

5. 配付資料

資料1：「警察取扱死体のうち、自宅において死亡した一人暮らしの者」（警察庁データ）をもとにした孤立死者数の推計方法等について～「孤独死・孤立死」の実態把握に関するワーキンググループとりまとめ～（骨子案）

6. 議事要旨

- (1) ワーキンググループ取りまとめ（案）について

事務局（内閣府）から、資料に基づき説明の後議論を行い、細かい修正は座長に一任となった。主な意見は以下の通り。

- ・ 警察庁が大変重要な資料をとりまとめたことに御礼申し上げたい。
- ・ 4(3)ア 警察取扱死体を推計の基礎とすることについて にて、改行がやたら多くなっている。1段落目が「まず」で始まり、3段落目も「まず」で始まっているので、確認いただきたい。
- ・ 9ページの2行目「以上の議論から、」から始まる文章について、言葉足らずの部分があるので、足した方が良い。
- ・ かかりつけ医についてはボリュームが多いが、きちんと説明を尽くすようにしている。
→過小要因を丁寧に議論した方が良いという点と、どれぐらい概念的定義とずれているのかのデータが必ずしもなかったことから丁寧に記載している。
- ・ 4(3)エ 自殺の取扱いについて にて、令和3年で21,007例中449例という

ことで、「例」という表現をしているが、自殺者数については「人」、原因・動機については「件」という表現をしているため、そのように修正してほしい。

→「例」を使わないのは症例の場合に使うからか。

→あくまでも、自殺の統計において、単位を「人」として共通で利用している。

- ・ 4 (3) エ 自殺の取扱いについて にて令和3年と令和5年で比較しているが、令和4年に自殺統計原票の見直しがあり、原因・動機について、今までは3件まで計上できていたものが、4件計上できるようになったため、増えてしまう傾向がある。単純比較ができないという状況になるため、その旨注意書きで書くか、令和3年の部分は削除することを、ご検討いただきたい。

→令和4年のデータはあるのか。

→あるが、令和4年と令和5年を比較すると、10件程度減っている。

→令和3年は削除し、令和4年と令和5年のデータを掲載することとする。

- ・ 4 (3) カ「生前の状況や看取りの有無」及び「死後経過時間について」 にて、経過日数で孤立死を扱うことや区切ることが困難である趣旨が記載されているが、その後日にちを区切って議論していくので、混乱を招くのではないかな。書き方や掲載する場所を変更した方が良いと思う。

→修正の上、ご相談させていただく。

- ・ 5 (1) 操作的定義について にて④、⑤、⑦がひとまとめに記載されているが、分かりづらいのではないかな。④、⑤をひとまとめにしたとしても、⑦は別にした方が良い。

→事務局案では、中間論点整理で⑦死後経過時間から生前の状況を推認するという観点から時間を見ていくという内容だったことから、一貫通貫にて説明した方が良くないかと思い、提案していた。

→生前の状況とセットということはそうかもしれないが、看取りの有無はロジックが成り立っていないのではないかな。

→いただいた意見を基に文章を修正し、ご確認いただく。

- ・ 15、16 ページのとりまとめ部分について、1文が全体的に長すぎるので、修文いただきたい。